

米欧亜回覧

第59号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集

広報メディア委員会

七月の全体例会は、新趣向で

「岩倉使節団の群像——歴史写真からの発見」

七月の全体例会は十七日(土)の午後、会務報告(一時三十分〜二時三十分)のあと、歴史部会の担当で新趣向の「歴史写真」の会(二時四十五分〜五時)が催される。

今回は、若き「歴史写真」の研究者 倉持基氏(東京大学大学院情報学環 特任研究員)を招き、岩倉具視、木戸孝允、大久保利通、伊藤博文らの肖像写真をはじめ、それにまつわる明治天皇の肖像写真の秘話やフルベッキ塾の写真の謎もまじ



4月全体例会 (国際文化会館)

えて、写真を歴史資料として捉える新たな視点からのトークと映像の会となる。東京大学大学院の馬場教授率いる情報学環グループの研究の一端が披露される。

写真から何が読み取れるか、その背後にどんな事情が隠されているか、写真師、写真館、装束も含め、一般の方にとっても興味ある内容になると予想されるので、お知り合いやご家族もお誘いいただきたい。

四月全体例会は、NPO総会とブンブンミーティング

NPO総会を兼ねる平成二十二年最初期の全体例会が、四月二十四日(土)午後一時三十分より国際文化会館ホールで開催された。二〇〇九年度の事業報告と会計報告および二〇一〇年度の事業計画などのほか、役員改選など新しい組織の発表と審議が行われた。

新しい組織は、泉三郎理事長ほか四名の理事が重任となり、山田哲司副理事長兼事務局長、



総会で退任の挨拶をする山田哲司副理事長兼事務局長

西井正臣理事および岩崎洋三監事が退任され、新事務局長に石垣禎信氏、新監事に楠木孝雄氏が承認された。

総会に続き、全員参加のブンブンミーティングが石垣新事務局長の司会進行で行われた。幹事会や企画委員会で議論されてきた、当会の活性化方針「米欧亜回覧の会の基本理念」と今後の展開(泉代表私案として前号掲載)をテーマに活発な意見が出された。(詳細は二・三頁)

山田哲司氏の謝恩懇親会、七月十七日に開催

七月十七日(土)に予定されている全体例会のあと、四月の総会で勇退された副理事長兼事務局長の山田哲司氏の長年の尽力に感謝し慰労する会を開く。

(日時)

七月十七日十七時三十分〜十九時三十分

(場所) 麻布楓林

(会費) 五千円。

この会については後日往復はがきで案内を出すので、出席希望者は事務局まで連絡されたい。

福沢諭吉に、六十三歳の時に書いた「福翁百話」という著作がある。

「福翁自伝」は余りにも有名で多くの人が読んでいるが、「福翁百話」の方は余り知られていないと思う。

私自身、最近初めて読んだのだが、そこには福沢流の「宇宙論」、「宗教観」、「道徳論」が展開されていて実に面白い。福沢が晩年に到達した「思想」とい

うべきか、「夢想」というべきか。それは「学問のすずめ」や「文明論之概略」以来二十年の体

験と思索の成果ともいえ、あるいはラストメッセージ的な放言の観もある。

そこには今日の文明の矛盾を見透すような言説も随所に出てくるのだが、福沢

はあくまでも進歩を信じ、極めて楽天的である。そして「孔子は道徳の聖人、ニュウトンは物理の聖人」とい

い、「二聖ともに一方に偏して二様を兼ねざりし」ゆえ不完全なりとし、「人間の達すべき知徳の標準は由つて以て知るべし」と、その兼備を希求する。

「人間社会は進歩無窮にし

て、地球の寿命永遠の約束なれば、進歩また進歩、改良また改良のその中には、知徳兼備の聖人を見ること易きのみならず、群聖輩出、その極度を想像すれば、満世界のみな七十の孔子、ニュウトンの知識を兼ね、人生の幸福、社会の円満、ほとんど近人の絵にも画くべからざるの境遇に達することあるべし。即ち

これ黄金世界の時代なり」

そうはいっても、現実には物は豊かになつても品性はよくならず、富は増えても貧富の格差が直らず、やはり宗教・道徳の必要を痛感したのだろう。福沢は無宗教を以て自ら任じていたが、最晩年に書いた「福翁自伝」の最後のところでは、「仏法にても耶蘇教にてもいざれにても宜しい。之を引き立てて多数の民心を和らげるようにする」とが大事だといっている。科学を信じ「銭を目的とすべし」とまでいった福沢も、結局は「知徳兼備」でなくてはダメ、一方に偏してはダメという結論に達したというべきか。

孔子の道徳、ニュウトンの物理

泉 三郎

これは黄金世界の時代なり」

そうはいっても、現実には物は豊かになつても品性はよくならず、富は増えても貧富の格差が直らず、やはり宗教・道徳の必要を痛感したのだろう。福沢は無宗教を以て自ら任じていたが、最晩年に書いた「福翁自伝」の最後のところでは、「仏法にても耶蘇教にてもいざれにても宜しい。之を引き立てて多数の民心を和らげるようにする」とが大事だといっている。科学を信じ「銭を目的とすべし」とまでいった福沢も、結局は「知徳兼備」でなくてはダメ、一方に偏してはダメという結論に達したというべきか。

第55回 全体例会

NPO総会に続き、ブンブンミーティング
米欧亜回覧の会の基本理念と
今後の展開について意見交換

平成二十二年度最初の全体例会は、四月二十四日(土)午後一時三十分より国際文化会館ホールで開催された。今回はNPO法人としての年度替りの総会を兼ねるため、二〇〇九年度の事業報告と会計報告および二〇一〇年度の事業計画などのほか、役員改選など新しい組織の発表と審議が行われた。

【総会】

総会に先立ち出席者の確認が行われた。正会員数百三十一名、出席者九十五名(うち書面表決者六十九名)となり、正会員の半数以上の出席を得て総会は有効に成立した。

まず議長に泉理事長を選出、議事に入った。議題及び審議の内容は以下のとおりである。

■議題

- ①定款変更について
- ②平成二十一年度の事業報告ならびに決算承認について
- ③平成二十二年度の事業計画ならびに収支予算について
- ④役員改選について

■参照資料の配布

「米欧亜回覧の会」平成二十一年度(二〇〇九年度)活動

報告および会計収支計算書(平成二十一年四月〜平成二十二年三月)、「米欧亜回覧の会」平成二十二年度(二〇一〇年度)活動計画および収支予算(平成二十二年四月〜平成二十三年三月)などの資料が配布された。(二〜四頁に掲載)

■審議内容

①事務局長の交代に伴い、事務所を江東区白河四一九一四一〜四一〇七に移転する事を席上配布の資料にて説明、審議の結果承認された。

②資料により詳細説明、審議の結果承認された。

③資料により詳細説明、審議の結果承認された。

④以下のとおり承認された。
重任理事(五名)：泉三郎、藤原宣夫、塚本弘、近藤義彦、石垣禎信、新任監事(一名)：楠木孝雄、前役員のうち、山田哲司、西井正臣、岩崎洋三の三名は退任。

*山田哲司 副理事長兼事務局長 退任挨拶要旨
入会当初、国際交流部会の幹事となり、どうしたら会員がお互いに知り合い理解できるか「交流」に注力し、旅行会などの交流イベントを企

「米欧亜回覧の会」・2009年度活動報告(2009年4月〜2010年3月)

	全体例会	実記・英訳読む会	現未来部会	歴史部会	グローバル・ジャパン研究会	広報メディア委員会 ・企画委員会	関西支部
2009年 4月	第51回例会(4/28) NPO総会 「宇宙・文明・人を語る会」 谷村新司氏	第128回実記読む会(4/9) ロンバルジー及ヒベネチアの記 ★第70回英訳読む会(4/16)		近現代史シリーズ 「ポスト戦後社会」 永富邦雄氏(4/20)			
5月		第129回実記読む会(5/14) 北日耳曼、後記上・下二巻 オーストリア道中並びに ウィーンの総説 ★第71回英訳読む会(5/21)		読書会の総括と今後 参加者全員で議論 (5/25)		広報メディア委員会 (5/2)	
6月		第130回実記読む会(6/11) 維納万国博覧会見聞/記上 維納万国博覧会見聞/記下 ★第72回英訳読む会(6/18)	「高福祉国家の実像」 「スウェーデンから日本の 未来を考える」 藤井威氏(6/26)	「洪沢栄—『論語と算盤』の 現代的意義について— 新しい資本主義 のゆくえ」 洪沢健氏(6/15)			
7月	第52回例会(7/19) 「伊藤博文の描いた国のかたち」 瀧井一博氏	第131回実記読む会(7/9) ローマ市の記・下 ★第73回英訳読む会(7/16)		第52回例会(7/19) 「伊藤博文の描いた国のかたち」 瀧井一博氏		ニュース55号(7/10)	第46回例会(7/11)
8月					報告書の感想について (8/28)		
9月		第132回実記読む会(9/10) ウィーン市の記 ハンガリー略説 ★第74回英訳読む会(9/17)		「大隈重信・井上馨と 明治国家」 五百旗頭薫氏(9/24)	報告書を踏まえて 今後の展開について (9/10)		第47回例会(9/28)
10月	第53回例会(10/18) 「建国60年を迎えた中国」 国分良成氏	第133回実記読む会(10/29) 実記のデジタル実験への 挑戦 ★第75回英訳読む会(10/15)	第53回例会(10/18) 「建国60年を迎えた中国」 国分良成氏		今後の展開についての議論 (10/14)	ニュース56号(10/15)	
11月		第134回実記読む会(11/12) ヨーロッパ政俗総論 ★第76回英訳読む会(11/26)		帝国主義日本の外交 「小村寿太郎と加藤高明 の足跡」 深津真澄氏(11/16)	今後の方針について (11/7)	第1回企画委員会(11/4)	
12月		第135回実記読む会(12/10) スペイン及ヒ葡萄牙国ノ 略記 ★第77回英訳読む会(12/17)			今後の方針について (12/4)	ニュース57号(12/15) 第2回企画委員会(12/16)	第48回例会(12/5)
2010年 1月	第54回例会(1/19) 「新年懇親例会」 テーマ「オランダ」	第136回実記読む会(1/14) ヨーロッパ州商業総論 ★第78回英訳読む会(1/14)		「陸奥宗光—近代日本外交 の元祖」 永富邦雄氏(1/27)		第3回企画委員会(1/21)	
2月		第137回実記読む会(2/10) 地中海航程ノ記 ★第79回英訳読む会(2/18)		「三井八郎右衛門高棟と 団琢磨」 由井常彦氏(2/22)	今後の展開を 趣意書にまとめる (2/26)		第49回例会(2/27)
3月						ニュース58号(3/15)	



全員が参加したブンブンミーティング



新事務局長となった
石垣禎信理事

画・実施した。その後、二回の国際シンポジウムの事務局を担当し、やり甲斐があった。思い出深いのは「ボンケパーティー」で始まった新年懇親例会の企画立案である。第二回のフランスから始まって、本年一月で使節団訪問十代の方にバトンを渡すよい機会と感じた次第である。今まで支えていただいた多くの会員の皆様に感謝します。

【ブンブンミーティング】
■テーマ
米欧亜回覧の会の基本理念と今後の展開について

総会終了後新しく事務局長



退任した
理事 岩崎洋三
監事 岩崎洋三
氏

(文責) 石垣 禎信
(写真) 橋本 吉信

に就任した石垣理事の司会進行で、出席者全員によるブンブンミーティングが行われた。昨年度後半より有志による企画委員会を中心に検討されてきた「米欧亜回覧の会の基本理念と今後の展開」について泉理事長から検討経緯や方向性について詳細な説明があり、そのあと全員でのディスカッションに入った。大変活発かつ率直な意見交換と討議が行われた。

個々の論点や対応策は、各部会や担当チームがフォローを行うが、大きくまとめること、次の二点が結論となった。

- ・当会の基本は「岩倉使節団」と「米欧回覧実記」にあることを再認識しよう。
- ・今までの「勉強会」の成果を活かし、様々な方法で「開かれた塾」への展開を試行し挑戦したい。

最後に、このブンブンミーティングの結論をこれからの大きな方針として、今年度の活動を展開していく事を参加者全員で確認し全体例会を終了した。

平成21年度 特定非営利活動にかかる事業 会計収支計算書

平成21年4月1日から
平成22年3月31日まで

特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入金収入		
入金収入	25,000	
会費収入	561,500	586,500
2 事業収入		
講演会等事業収入 (部会活動収入を含む)	1,424,000	1,424,000
3 賛助金・寄付金	2,062,000	2,062,000
4 その他収入		
利息収入他	2,015	2,015
当期収入合計 (A)		4,074,515
前期繰越収支差額		3,491,834
収 入 合 計 (B)		7,566,349
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 講演会等事業費	1,484,621	
(2) 会報発行事業費 (印刷費)	457,700 (275,700)	
(郵送費)	(182,000)	
(3) 出版事業費	1,000,000	2,941,321
2 管理費		
電話・通信費	315,789	
会議費	142,572	
事務費	491,303	
人件費	600,000	1,549,664
3 その他		
書籍購入費	53,895	
グローバルジャパン研究会	185,757	239,652
当期支出合計 (C)		4,730,637
当期収支差額 (A) - (C)		△565,122
次期繰越収支差額 (B) - (C)		2,835,712

(単位：円)

平成21年度 特定非営利活動にかかる事業 会計貸借対照表

平成22年3月31日現在

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預金	2,835,712	
流動資産合計		2,835,712
2 固定資産		
固定資産合計		
資産合計		2,835,712
II 負債の部		
1 流動負債		
流動負債合計		
2 固定負債		
固定負債合計		
負債合計		
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		△3,491,834
当期正味財産増減額		656,122
正味財産合計		2,835,712
負債及び正味財産合計		2,835,712

平成22年度 事業計画書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

- 事業実施の方針
平成22年度は、事業の中心を講演会、部会活動、会報(ニュース)発行の3本柱とする。
- 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施 予 定 日	実施 予 定 場 所	従事者 の 予 定 人 数	受益対象者 の 範 圍 及 び 予 定 人 数	支出見 込み額 (千円)
講演会	講演会年3回 交流・交歓会年1回	4月、7月、 10月、1月	日本プレスセン ター他	各回8名	一般市民 講演会(各回)80名 交流会90名	1,400
部会活動	研究及び啓発活動	部会により、毎月 又は年4回	国際文化会館他	各回3名	一般市民 各回25名	上記に含む
会報(ニュース)発行	会の活動に関する会報 の発行により研究・啓 発を行う	季刊(年4回)		3名	一般市民 各号800部	500

注) 部会とは、「実記」を読む会、英文「実記」を読む会、歴史部会、現未来部会、国際部会、青年部会、グローバルジャパン研究会、総務部会、広報メディア委員会の9部会である。

平成22年度 予算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 米欧亜回覧の会

(単位：円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入金収入		
入金収入	50,000	
会費収入	600,000	650,000
2 事業収入		
講演会等事業収入 (部会活動事業収入を含む)	1,500,000	1,500,000
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入 民間助成金収入		
4 寄付金収入		
5 基本金運用収入		
基本金利息収入		
当期収入合計(A)		2,150,000
前期繰越収支差額		2,835,712
収入合計(B)		4,985,712
II 支出の部		
1 事業費		
講演会等事業費 (部会活動費を含む)	1,400,000	1,400,000
2 会報事業費		
印刷費	300,000	
郵送費	200,000	500,000
3 事務費		
電話通信費	300,000	
会議費	150,000	
事務費	500,000	
人件費	600,000	1,550,000
当期支出合計(C)		3,450,000
当期収支差額(A) - (C)		△1,300,000
次期繰越収支差額(B) - (C)		1,535,712

グローバルジャパン研究会報告

連絡 石垣 慎信



y.ishigaki@attokyo.co.jp

四月二十八日、国際文化会館セミナールームで開催。参加者は七名(アンケート提出者含む)。アンケート「日本の現状認識」についてのディスカッションを行った。

た。これは「新企画趣意書二〇一〇〜二〇一一」に沿う日本のオピニオンリーダーを招いての研究活動の前に、研究会メンバーによる日本の現状についての認識を確認しておく意味で行われた。各自三つに絞った日本の良いところ(長所、魅力・)と悪いところ(短所、弱点、問題点・)を挙げ、良さを伸ばし強化する具体策と、悪いところを是正し、変革する方策を発表し討論を行った。

これは当研究会の「日本の現状認識」を問われたときに、問題意識の出発点として説得力のある材料になるものと考え

尚、六月三日には麗澤大学教授でユネスコの元事務局長、特別参与の服部英二氏を招き、初の公開研究会を行うことを決めた。

(文責) 石垣 慎信

歴史部会報告

連絡 小野 博正



mi040031-9697@tba.t-com.ne.jp

陸奥宗光(一月)、三井八郎右衛門高棟と団琢磨(二月)に続き、歴史人物シリーズを開催した。

■横井小楠をめぐる幕末英傑群像

四月二十三日開催、出席者十三名。講師は会員の小野寺満憲氏。

前回講演の小楠の『士道』『西洋に心徳なし』『大義を四海に布かんのみ』などの言葉に魅かれ専門家の話を聞きたく、橋本左内の『啓発録』、吉田松蔭の『留魂録』を英訳した知友ならと講演を打診したが時間的に都合がつかず、自分で話す羽目になった。波乱に富んだ生涯を分かりやすく、修養時代と政局活躍時代との二枚の年表にまとめお話しした。

勝海舟曰「おれは、今まで天下で恐ろしいものを二人見た。それは横井と西郷だ。横井の言を、西郷が行ったらもはやそれまでだ」『自分は小楠の弟子である』『開国論者として、妹婿の佐久間象山より上だ』。幕末回天の原動力になった坂本龍馬が大政奉還を実現させるまでには、師匠

小楠との密接な交流があった。龍馬の有名な『日本をい一度洗濯致し候』は、小楠の『天下一統人心洗濯願うところなり』に由来し、龍馬の『船中八策』や『新政府綱領八策』も、小楠の『国是三論』『国是七条』『国是十二条』が下敷きになっている。閉居中の小楠との最後の会談で曰「今先生は、西郷や大久保共がする芝居を見物なさるがようござる。彼らが行き詰つたらちよいと指図して下さるとようございましょう」。松平春嶽が政治顧問に、三顧の礼で藩政を迎え、慶喜政権の政治総裁職のブレンとして重用、岩倉具視は新政権参与として迎えた。佐幕派・攘夷派両方から一目置かれたのは、小楠の「国を思う無私心」によって「経世済民」の国づくりを語ったからである。その心は尊崇する楠木正成(小楠の名の由来)、中江藤樹から学んだものである。

十七歳の明治天皇には、君徳による世界無比の国づくりを期待し、堯舜の徳治の理想を熱く語り、遺書でその教えを残した。小楠の薫陶を受けた二人、元田永孚は、小楠思想を伝える「沼山閑話」を残し、二十年にわたり天皇への進講で良く輔翼し、「教育勅語」を起草した。また、由利公正は「五箇条の御誓文」を起草した。小楠の理想を最も体現し日本を導いたのは、その治世を世界中が称えた明治天皇ではなかったかと考えるに至った。

小楠は、まさに明治維新の青写真を描いた男であったが、明治二年に暗殺されたため、以後の維新政治がいびつになったと惜しまれている。

■村田省蔵の大東亜戦争

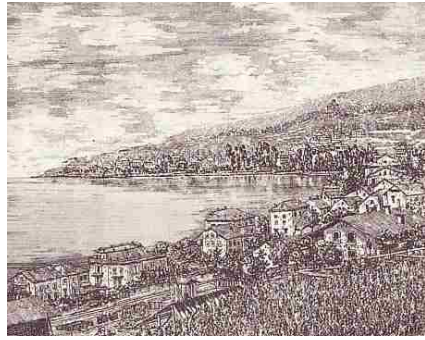
(文責) 小野寺 満憲

五月十一日開催、出席者十三名。講師は、元歴史部会幹事で、現在はネット広場「リベラル21」で、健筆を振るっている半澤健市氏。

村田省蔵(むらたししようぞう、一八七八〇明治一一年〜一九五七〇昭和三二年)は忘れられた財界人である。一九三〇年代に大阪商船社長、船主協会会長として海運業界人をリードしたのち、第二次近衛内閣に入閣し鉄道大臣・逓信大臣として戦時経済を支えた。日米開戦後の東条内閣では比島派遣軍最高顧問・駐比日本大使を務め大東亜共栄圏の一翼を担った。戦後はA級戦犯容疑者として巣鴨に二年間収容された。公職追放を経たのち、晩年を対比賠償交渉と日中貿易再開に尽くした。特に「日本国際貿易促進協会(国貿促)」会長として冷戦体制下にもかかわらず日中貿易の基礎を築いた。

易の基礎を築いた。彼は、財界人・政治家・外交官・戦犯容疑者という体験のなかで「戦争」を克明に記録しただけでなく、戦争犯罪、戦犯裁判、戦後構想、民主主義、共産中国などについての長文の考察を残した。それを読むと、大東亜共栄圏の理想を信じて「聖戦」を戦った村田が、フィリピン戦線、敗戦直前の「帝国」指導者の観察、巣鴨プリズンの生活を通して、「聖戦」の実相を識ったことがわかる。思索と内省を経て、村田は「大東亜共栄圏」は「植民地支配」であり、「大東亜戦争」は「侵略戦争」であるという認識をもつようになる。

(文責) 半澤 健市



レマン湖畔、エビアン村(『実記』)

実記を読む会報告

連絡 桑名 正行

Tel&Fax 03-3642-9570

mkuwana@nifty.com



■ 第三百三十八回

三月十一日、出席者十一名。

例会に先立って、年内に第百巻を読み終えるそのあとの方針について各々が意見を出した。当初から

の会員には三ラウンド目になるが、その後の参加者は第一巻から読みたいとの声もある。また、一巻ずつ縦に進めるのではなく、横通しのテーマを中心にしては、という案もあった。

第八十四巻 瑞士國ノ記、第八十五巻 瑞士蘭山水ノ記、第八十六巻「ベロン」及ヒ「ゼネーヴ」府ノ記

第三百三十三回で鵜飼がスイスを担当したが、そのときは

デジタル実記の説明だけになった。今回、スイス編の全三巻を改めて見直すこととした。(一) 用意した資料は前記の三巻のデジタル実記のコピー(全二十四頁)。(二) 最初に七月十日の記述(⑤107.16~p109.13)を読んだ。

「日本政府ヨリ、急ニ歸國スヘキ電信來リ、葡萄牙國行ヲ中止シ、歸装ヲナス」と書いたその翌日のことである。一行が明治政府の派遣団としての責任感から開放され、長い旅の終わりに三十歳代の若者に戻ってはしゃぎまわっている様子が描かれている。

(三)この後、スイス編全三巻の強調部分をレビューした。実記全体の中で、スイス編は強調部分がしっかり付いている。報告書として無人称に書かれた実記において、ここに久米さんが実記読者に当たったメッセージが埋め込まれていると思う。

(文責) 鵜飼直哉

■ 第三百三十九回

四月八日、出席者十名。第九十六巻 阿刺伯海航程ノ記 岩倉使節団はマルセーユ出帆のavuア号で帰國の途に就き、地中海、スエズ運河、紅海を経て八月一日アデンに着した。第九十六巻は、アデンから次の寄港地セイロン島

に到着するまでの記録である。アデンでは上陸して砲台や溜水池を見て、民情を視察し、久米は「第七十三巻イタリヤ國ノ略説」で引用した「古ノ語ニ曰、沃土ノ民ハ情ナリト」をここでも引用し、この地域はイタリヤより更に貧しいことを痛感している。一日の夜はavuア号に宿泊し二日アデン出発。七日の項には、航路の北六百マイルにあるインド第一の港ボンベイの紹介をしている。

第九十六巻全十頁余りを音読、出て来る難解二字熟語三十余りを簡単に解説し、アデンとムンバイ(ボンベイ)のウィキペディアコピーを資料として添付紹介した。

アデンはイエメン共和国の首都サナアに次ぐ第二の都市である。紀元前にソロモン王が造ったという溜水池の話が出てくるが紀元前十世紀頃南アラビアでは東西貿易の中継地、海のシルクロードの最後の陸上部分としてシバ王国が繁栄していた。「シバの女王」は、イスラエルのソロモン王に謁見を求め、隊商ルート

の安全確保に成功したという。その時ソロモンの子を宿し、その子はエチオピア皇帝家の始祖となったという伝説もある。千九百五十八年スペインでのロケ中に急死したタIRON・パワーのあとを受けた

ユル・プリンナーとジーナ・ロブリジータ主演の「ソロモンとシバの女王」はオールド・フアンにはなつかしい映画である。

(文責) 三原浩

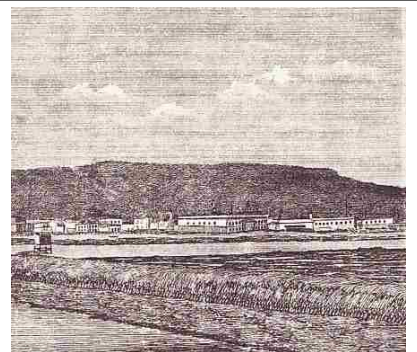
■ 第四百四十回

五月十三日、出席者十名。第九十五巻 紅海航程ノ記

いよいよ一行は四年前に開通したばかりのスエズ運河をとおし、酷暑の紅海を五日かけて通り抜けアラビア海に出た。東西の景色を相変わらず美しい文章で綴っている。砂漠の砂を「真に寒からざる雪」と表現し、また、スエズでは港の様子を「東京石川島に彷彿たり。」と書いている。

しかし、この巻の文は今までと違っている。一字下がりではなく、評論と実体験が入り交じっている。次に、久米氏のスエズ運河を作ったレセツプス氏に対する讃歌である。レセツプス氏は理解しがたい人であるが、久米氏は一言の厳しい評論はなく終始絶賛している。

産業革命以来欧米各国は三、四十年で英国を追いこしていき、英国は船の数、植民地そして財力で世界をぬいていた。もうすでに新たな時代に入っていた。久米氏は最後に英国の紅海の喉といわれ所島のペリー島の警備隊について「噫、宝庫を守る



スエズ運河の入り口(『実記』)

英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

iwasaki-yz@jcom.home.ne.jp



に一中略一國の盛衰は尤も人民の魄力に係る。技財貨は第二議にあり。」と書いて、英国を讃えている。この巻を書いた時の久米氏の気持ちを知らたい文である。

(文責) 金本 君子

■ 第八十回

三月十八日、出席者七名。

Chapter 8 (ベルリン市総説)の概要

出席者全員に一人二、三

ページずつ音読してもらい、報告者は英訳者のつけた十箇所のnotesを和訳し、その中で引用された事項(文久の遣欧使節竹内保徳や条約交渉中に切腹した堀織部正照など)について報告した。

今回討議した英訳に関する
疑問点の例は下記の通り。

- ・ p.301, pg.1, last lines ~ constantly planning new attacks on Bismarck. 原文は「常ニビスマルク氏ヲ狙撃センコトヲ企ツルニ至ル、」
- ・ p.303, pg.2, line 4 ~ to produce useful tools and high-quality goods, ~ 原文は「便利ノ具、滋美ノ味ヲ製シテ、」
- ・ p.305, pg.3, line 4 dolphins はイルカ(海豚)だが、原文は「江豚」となっており、現代語訳は「カバ」となっている。
- ・ p.306, pg.1, line 11 Carriages with iron wheels ~, 原文は「街車ノ鉄軌アリテ、」
- ・ p.306, pg.2, line 11 ~ climbed atop the snake's slithering back. 原文は「其盤渦セル背上ニ上ル、」
- ・ p.307, pg.2, line 2 ~ four pulled by twelve, ~ 原文は「二馬ノ車四乗」

(文責) 三原 浩

■第八十一回

四月十五日、出席者六名。

Ch. 58 A Record of The City of Berlin' 1

本章は、三回にわたる「ベルリン市の記」の第一回の章で、三月十二日から十五日にかけて訪問した王宮、議会、工場、病院、博物館・美術館等の見学記及び関連記録、並びに宰相ビスマルクの招宴と同宰相の略伝が記されている。訳者がNoteに記しているビスマルクのスピーチに関し、使節団の一員の名前をHan-Nama某としている(出典も明記されている)が、この出典を三原氏が、国会図書館にて調べていて下さり、それによれば、[Most probably Hatai Keyama]とのことで、お陰様で一同納得することが出来た次第である。尚、このスピーチについては、「現代語訳」判の訳者注にも記述がある。

■第八十二回

五月二十日、出席者六名。

Chapter 59 Record of the city of Berlin, 2

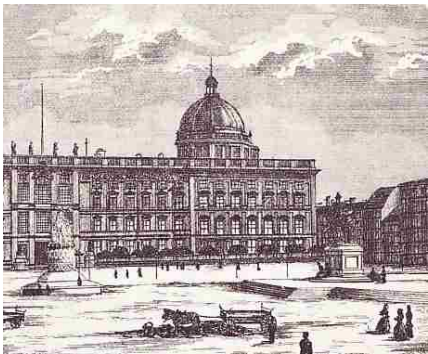
本章は、三回にわたる『ベルリン市の記』の第二回の章で、三月十六日〜三月二十日にかけて訪問した、兵器庫(軍需工場)、モンビジュール城、電信局、ソーダ水の製造工場、造幣局、天文台の訪問が記されている。三月十九日

(文責) 永島 脩一郎

の、ドイツ支局、エバンジェリカル同盟のローマ帝国の訪問があり、日本に宗教の自由を与える為であったが、既に日本では、キリスト教禁止令は二月二十六日に取り除かれていたと言う注釈は興味深かった。

兵器庫(軍需工場)は一七〇六年に完成し、第二次世界大戦迄は生き延びたが、久米が見た、ブロンズの獅子は、デンマークに持ち帰られ、今は歴史博物館になっている。プロイセンを攻めて勝つたのを記念して、戦利品の武器を溶かして造ったものだが、一八八四年の戦争で今度はプロイセンが勝って、奪ってきたものであり、勝つた者は歓喜し、負けた者は憤激し、終わることが無く、いっそのこと全てを取り除けばよいのではとの意見は面白いと思った。

(文責) 森本 麗千子



ベルリンの王宮(『実記』)

関西支部報告
連絡 難波 康熙



namba@jttk.zaq.ne.jp

■第四十九回

二月二十七日
開催、出席者九名。輪読は第二巻(編)の五十
四頁から。
英国はヴィクトリア女王の時
代が大英帝国として最も栄光に輝いた時代であると言われている。ヴィクトリア女王の時代に合わせた読んだ国家経済力の視点で見ると、意外にも一八五一年のロンドンで開催された万国博覧会の時期が絶頂期であった。その後、インド、中国に勢力を拡大し東洋での植民地支配力を確立し、工業生産分野での競争力はむしろ徐々に後退していく。

ヴィクトリア女王のもとでロンドンは大英帝国の中心と拡大していき、薩英戦争の翌年一八六四年には地下鉄が開通している。シティーを中心に金融、保険業、貿易など非製造業にシフトして発展して行く。
岩倉使節団が訪れた時から世紀末のヴィクトリア女王末期の僅か三十年間にロンドンの人口が倍増したのは、このような新しい事業活動の興隆に負うところが大きい。

■第五十回

五月八日開催、出席者十一名。第二編(二巻)英吉利国の部 第二十二巻(章) 倫敦府ノ記 から輪読を始める。
二日前に英国の総選挙が実施され、福沢諭吉も非常に注目していた英国議会の二大政党による政権交代に関心が集まり、少しスキップして実記二十四巻(章)の英国の政治制度について言及のある章を輪読し、政治制度に話題が及んだ。

英国の政治制度の前提に、理想的な「三権分立制度」があると我々日本人は思っていた。しかし、意外にも英国では「最高裁判所」が二〇〇九年に初めて設置された。それまでは「大法官」という官名で貴族院(上院、日本の参議院)長が最高裁判所長官、さらに国務大臣まで兼ねていたという事実一同驚かされた。(大法官官廃止決定は二〇〇六年)いわゆる三権分立などという概念は英国には存在していなかったと言える。イギリスは一貫して三権分立ならぬ議会主権の国である。
この議会主権、議会オールマイテイの概念が庶民院(下院)とはいえ議院を支配する与党と与野党の交代のありかたに我々以上に英国人は関心を持つのであろう。

(文責) 難波 康熙

特定非営利活動法人
「米欧亜回覧の会」ご案内

趣 旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この歴史的な大いなる旅と「実記」は、まさに「温故知新」の宝庫といえましょう。
この素材を媒体に歴史を学び、現代の直面する諸問題についても自由に語り合う会です。

会 員 趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例 会 年に4回、全体例会があります。

部 会 テーマ別に読む会、歴史、現未来部会等があり、映像サロン・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。

機関紙 年に4回、機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

役 員 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。

会 費 年会費6,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、学生、仮入会希望者には地方会員、準会員、学生会員の制度もあります。

事務局 「米欧亜回覧の会」
〒135-0021
東京都江東区白河 4-9-14-1407
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL:080-6612-1101 FAX:043-238-6690

入会申込

入会申込書は事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。

なお年会費などのお支払は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

ホームページ

メッセージ・活動と内容・岩倉使節団・米欧回覧実記・会員のページ等
また、書籍・DVD案内もあります

<http://www.iwakura-mission.jp>

*お知らせ欄も時々チェックしてください



<催し案内>

2010年6月～9月の予定です

☆7月全体例会(歴史部会担当)

日 時: 7月17日(土) 13:30～17:00

第一部: 会務報告 13:30～14:30

第二部: トークと映像の会 14:45～17:00

ゲスト: 倉持基氏

(東京大学大学院情報学環 特任研究員)

場 所: 国際文化会館

会 費: 2,000円

*全体例会終了後、山田哲司氏の謝恩懇親会を「麻布楓林」で開催します。

☆実記を読む会

日 時: 7月 8日(木) 18:00～20:30

9月 9日(木) 18:00～20:30

場 所: 国際文化会館

会 費: 1,000円

☆英訳実記を読む会

日 時: 6月30日(水) 18:30～21:00

7月15日(木) 18:30～21:00

9月16日(木) 18:30～21:00

場 所: 国際文化会館

会 費: 1,000円

☆グローバルジャパン研究会

日 時: 7月12日(月) 18:00～21:00

テーマ: 服部英二氏の講演(6月3日)に関するフリーディスカッション

場 所: 国際文化会館

会 費: 1,000円

☆関西支部

日 時: 7月24日(土) 13:00～16:30

テーマ: 第51回例会

場 所: 大阪弥生会館

☆中国・歴史と上海万博の旅

日 時: 6月17日(木)～24日(木)

テーマ: 日露戦争の戦跡を訪ね・上海万博を見学する

日 程: 大連2泊、瀋陽2泊、上海3泊

参加者: 14名

編集後記

◇山田哲司氏が副理事長・事務局長を退任されました。新年懇親会の企画・実施や国際シンポジウムの開催に多大な貢献をしてくださりました。とりわけ、NPO法人化は山田氏の尽力によるところ大です。今後は、当会の発展・活性化の道を受け継いだ基盤の上に構築することになります。ありがとうございます。

◇五月二十三日(日)のN響アワー「太平楽会」岩倉使節団が聴いたコンサート「(NHK教育テレビ)午後九時(十時)の放送予定が、英訳実記を読む会の情報としてメールマガジンの送付に送付されました。ポストンで使節団が鑑賞した日のプログラムの、その中の三曲をN響が演奏、使節団メンバーの手記や銅版画も紹介されています。『実記』や使節団をより広く知ってもらう切りの一つとして参考になる番組でした。

◇一方、当会の新展開として、「世界の中の日本の役割」をテーマとするグローバルジャパン研究会が本格的に稼働を始めました。内容については次号に掲載しますが六月三日に公開研究会が催され、外部の方を含む七十三名が参加しました。(N)